



## 夏季休業中開催の研修講座報告4

# 曾山先生の「特別支援教育」講座！



特別支援教育をテーマにした講座は、毎年大変ニーズが高く、たくさんの参加者が集まります。今年度も、2回の講座でのべ400人を超える参加者がありました。

曾山先生の話は、ユニバーサルという言葉の意味からはじまりました。ユニバーサルな教育とは、支援の必要な子ども周囲の子どもともに学べるよう工夫された教育のことだと話が進みます。

今の子ども達は、ソーシャルスキル(人づき合いのコツ・技)と自尊感情が弱いと先生は話します。これらの子ども達が「気になる子」として浮かび上がり、個に合った対応を一生懸命模索している先生方の現実を受け、具体的な話になりました。注意が持続しない子にはリズム

とテンポを大切にされた対応を、短期記憶の弱い子には1指示1動作がよいことなどを教えていただきました。また、朝の10分間に、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れている学校の話も紹介してくれました。

高い学力は、学級の状態と関係があるという話がありました。ルールがあり安心感のある学級を作るには、肯定的な表現や「ありがとう」「うれしい」「助かる」という勇気付けの言葉がたくさんあるといいます。3時間にわたる先生のご講演を振り返る時、教わったことは全ての子ども達に通じること、つまり、特別支援教育を進めることで全ての子ども達が伸びるのだとわかりました。

### アンケートより

(一部抜粋)

大変わかりやすく教えていただき勉強になりました。特別な支援が必要な子どもだけでなく、すべての子どもにより指導の仕方がよくわかった気がします。

子どもへの言葉がけや対応などで、様々な方法があることがわかりました。私自身が授業で困っていることもあったので、先生のお話を参考にさせていただきたいと思います。子どものことを理解してほしかった…保護者の思いが深く心に届きました。

# 赤坂先生、「学級づくり」講座！



今の時代は、「集団で学校の教育力をあげ、学校・保護者・地域の信頼を高める時代」と話がはじまりました。

学級づくりにおいては、始まりが大切。スタート時の誤差がゴールでは大きくなってしまったり、理想のゴールビジョンを熱く語れる教師であってほしいことなど、話が進みます。ネタはつきのもの、根底の考え方を共有することが大切など、深い内容の話がリズムカルに語られていきました。

理想のゴールビジョンを持ちつつも、実現しないのはなぜか。ドラッガーの話を持ち出して、戦略の必要性を熱く語ります。計画や理想だけでは実現しない。リスクを伴う意思決定があるか、意思実行の活動が組織化されているか、改善につながる評価をしているかと、具体例をあげながら、ポイントを明確にした話が続きます。

途中にワークショップをおりませながら、先生の話は進みます。実際に話し合いを体験することで、教師と子どもの関係を築いたり、子どもと子どもの関係をつくったりしていくノウハウを学びます。聞いたことは忘れるけれど、話したことはほとんど覚えていると先生がつけ加えます。納得ですね。

話は、どんどん具体的になっていきます。心に残ったのは、グループとチームの違いについての話。グループは「群れ」で、チームは「団」。学級づくりは、便宜的な「群れ」を目的に向かう「団」に育てることだと教えてくれました。また、学級の状態はいつもチームである必要はなく、仲よし集団（ホーム）とチームを行ったりきたりすることが今の子ども達の実態に合うとも教えてくれました。

後半に入り、「群れ集団 仲よし集団 課題解決集団」へと高みを目指した集団作りの話になりました。学校行事や児童会行事の場を活用して良好なチーム体験を積んでいくことや、全体の課題を設定してチーム化を進めることを、具体的な例をあげながら説明してくれました。マラソン大会が近づき学校に行くのを嫌がる子がいた時、全員の記録の合計をどれくらい縮められるかという課題を設定したところ、張り切って苦手なマラソンにチャレンジする子どもの姿が見られた話は、心温まるものがありました。教師の見事なしかけで、チームで伸びようとする学級集団が生まれるのだとわかりました。

「団」（チーム）を形成していく学級では、「分からない子を教える」「分からないと言える」場面が自然と生まれてくると言います。心があたたまっている子は、冷えている子をあたためるのです。一人ではがんばれないことが、チームならがんばれることに気づいていくというのです。信頼できる他者がいると挑戦できる。失敗しても逃げ込めるから。先生は、ご自身の実践をもとに、成長する子ども達の姿を思い浮かべながら、熱く語ってくださいました。

学級はいきなりチームにはならないという話も納得です。学級は、縦系（先生と子どもの信頼関係）と横系（子ども同士の信頼関係）でできており、先に縦系をしっかり張らないと学級が成り立たないと言うのです。学級集団づくりを進める時は、まず縦系張りから

ということでしょうか。

やる気のない子ども達の現実や、学校では問題行動を起こしながら家ではよい子になる子どもがいる現実を捉え、先生の話は進みます。「やる気のない赤ちゃんはいない。やる気のなさは後天的に学んだものだから、学びなおせば意欲的になる。」という先生の言葉は、心に深く響きます。教師が意図的なしかけをし、子ども達が自分の力で達成したと思える場面を作り出す・・・教師が日々ていねいに糸を張る時、信頼関係が生まれるのだと思いました。

信頼関係をつくる一つの力として「世間話力」という話がありました。相手を優位に立たせる会話を学級の子供達全員が心がけるだけで、集団がまとまり意欲が引き出されるといいます。なるほど、考えてみれば私たちの周りにも、もっと話したくなる同僚の先生っていますよね。楽しさ、安心感、承認があるおしゃべりは、子ども達の意欲向上にもつながるのだと思いました。

最後に、求められる教師像の話になりました。わかりやすい授業はもちろんですが、しかったりほめたりしてやる気を出させてくれる先生が求められているといえます。「教師の指導性には賞味期限がある。普通に学級経営をしていくと、子どもの満足群は目減りしていく。」という先生の言葉を聞いて、日々子ども達と楽しみながら、意欲的に改善を繰り返す教師の姿を思い浮かべました。私たち教師の営みは、目の前に子ども達がいる限り、永遠に続くのです。「教師になってよかった。」という、参加者の先生をつぶやきが心に残りました。

## アンケートより

(一部抜粋)

副担任である私は、生徒とうまく人間関係を築くことができずあせっていました。縦の関係のお話で、私自身が生徒との関係を築こうとしていなかったことに気づきました。新採、忙しい、時間がないと言いながら、私は一体何に時間をさいていたのかと振り返りました。

とても短く感じられた3時間でした。グループトーク等も楽しくできました。

「群」から「団」へという言葉はとても心打たれました。私自身、子どもにきちんと向き合っているのか考えました。クラス会議を取り入れてみたいと思います。

九月からの実践に活かしたいと思います。高い「志(想い)」を持っていても、発揮できない現状に・・・。

すべての基本が学級経営にはじまり学級経営に終わる。子ども達に求められる教師を目指し、また明日からがんばろうと思います。

子どもとの信頼関係、とても大切だと思いました。一人ひとりの子の顔を思い浮かべながら、話題を見つけられない子とずっと話せるようにしたいと思いました。

子どもがうまくできていない時、どうしても手を出したくなりますが、それだけではだめなのだとわかりました。つまりいても、失敗しても、自分で何かをする体験が必要なのだと思いました。話がわかりやすく、面白かったです。

先生の熱意、子ども達にかける思いが伝わってきました。今、自分の前にいる子ども達と、少しでもいいクラスを作っていきたいと思いました。